

(89.7.6)

第19回異常吸収国際会議に出席して

高部英明

6月27日、サンフランシスコ着。Immigration(入管)で「どこに滞在？」と聞かれ、「Durango, Colorado」と返すと、「ああ、とてもいい所だよ」と返ってきた。

第19回の異常吸収国際会議(Anomalous Absorption Conference)。米国ロス・アラモス研の主催で、フォートルイス・カレッジの施設を借りての会議(大学は6月中旬から9月中旬まで夏休み)。会議のスタイルは、5-6年前より午前中が口頭発表(約10件)、午後が自由時間(Time for Anomalous Absorption of UV light of the Sun)で、夜が1時間のレビュー講演。後は、ビール・ワイン片手のポスターセッション。

参加者は150人程度。短パン・サンダル履きの英国ラムズデン教授他、ノーネクタイのリラックスした会議でした。話題は、レーザー・プラズマ相互作用を中心に広い範囲で、低温核融合のレビュー講演までありました。会議で印象に残ったことは、

- (1) LLE (Rochester 大学)の全力投球とも思える SSD (照射均一性向上)への熱の入れ様と、着実な成果。
- (2) NRL の FAST2D、3D コードを用いた powerful simulation (CRAY-YMP で 230 時間の CPU とか...) と、結果の delicate analysis。
- (3) ”LLNL in dark cloud of DOE ?!”。この会議は名前から本来、レーザー・プラズマ相互作用の話題が中心ですが、過去には爆縮の話題も多々あったのですが、今回は、爆縮については私の招待講演ぐらいのものでした。

パラメトリック不安定の話題が多く、SBS と SRS との競合現象についての議論が盛んに行われました。ビート波加速については、英国の RAL と IC (Imperial College) の合同チームが 10 人程度で強力に実験し、理論(プラズマ波の変調不安定)を組み立てていました。今回はミシガン州の KMS の主催です。

6月19-23日の会議の後、加藤、東両氏と週末を過ごし、その後、私は一人アリゾナ大学を再訪しました。81-82年にかけて、助手として滞在し、Rayleigh-Taylor 不安定の研究をしていた所で、メキシコに近い Tucson (ツーソン) という砂漠の中の人工の町にキャンパスがあります。大学は5月中旬から夏休みとのことで、人も少なくのんびりしていました。友人の Lealant と情報交換。しかし、彼も来月には Los Alamos か Idaho の研究所に移るとのことで、LANL の X-1 部門のリーダー D. Wilson と条件交渉の真最中でした。

Tucson は相変わらず暑く、当日は 105°F (40度)、前の週は 115°F (46度) までになったとのこと。こんな暑い町ですが、私にとっては思い出の多い古里のような町です。

2年半ぶりの USA。「さあ、またいっちょがんばるか」という気分させられたいい海外出張でした。